



格子や庇といった日本建築の要素を取り入れ、フロント・ラウンジは天井のラインに照明器具を仕込んだジャパニーズ・モダンの空間

ハタゴイン福島広野

HATAGO INN FUKUSHIMA HIRONO

復興まちづくりの中核となり 雇用も創出する現代の旅籠

東日本大震災で多くの家屋やライフラインが壊滅的な被害を受けた福島県双葉郡広野町。加えて福島第一原子力発電所の事故により、町民のほとんどは町外での避難生活を強いられたが、2013年11月の警戒区域解除以降、復興・再生に向けたインフラ整備が進む。JR常磐線広野駅周辺では駅前広場が整備され、7階建のホテル『ハタゴイン福島広野』がオープンした。事業主は、広野駅東側の復興まちづくり中核施設であるビジネスホテルの建設・運営事業者に選定された『ひろのプログレス合同会社』*。

*広野町での復興まちづくり支援のためのホテル整備事業者として選定されたスターリングパートナーズ合同会社のグループ会社。

運営にあたっては、国内外で多くのホテルやフランチャイズなどをマネジメントするソーラーホテルズアンドリゾーツ株式会社と業務提携、地元人材を雇用・育成するとともに地元企業と連携して地場食材の活用も図る。HATAGO INNのコンセプトは庶民の宿泊施設として賑わっていた『旅籠』を現代に再生させること。利便性の高い立地に日本の伝統的な旅籠の情緒性を融合させ、“泊まる”をもっと楽しくするためのアイデアが凝らされている。随所に和のテイストを施した客室はシングルルームを中心に全222室。レストランや会議室は、地域住民の交流の場となることも計画されている。



ハタゴイン福島広野

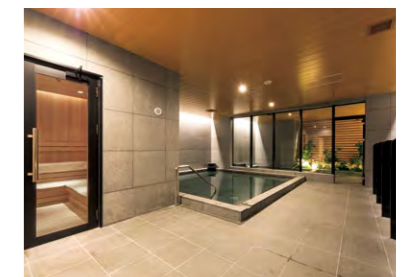
所在地／福島県双葉郡広野町下浅見川広長
事業主／ひろのプログレス合同会社
運営／ひろのプログレス合同会社
(ソーラー ホテルズ アンド リゾーツ株式会社と業務提携)
設計／パナソニック ホームズ株式会社
施工／パナソニック ホームズ株式会社
オープン／2018年10月



和のテイストを施した客室に設けられたダウンライト



地域の人も利用できる1階会議室のベース照明



坪庭への照明が広さを感じさせる男性用大浴場



事務室に設置されたネットワークカメラ、非常用放送設備、防災受信機(左から)



駐車場に設置されたEV・PHEV用充電スタンドELSEEV

主な設備

- LED照明器具
- ネットワークカメラ
- 非常用放送設備
- 防災システム
- EV・PHEV用充電スタンド ELSEEV